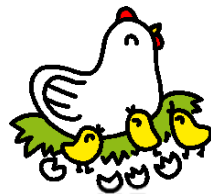




高病原性鳥インフルエンザ対応は万全ですか！！

～ 全国、県内の養鶏場の対策はほぼ実施済み ～



高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生予防の観点から、平成 21 年 9 月に全国の 100 羽以上（だちょうは 10 羽以上）を飼養する養鶏場（9,550 農場）に立入調査を行い、飼養衛生管理基準*の遵守状況等の確認を実施しました。その結果、97.2%の養鶏場で適切な飼養管理が行われており、また、残る養鶏場いずれも改善（消毒による改善等）に取り組んでいることが確認されました。

新潟県内においても同様の調査が行われ、防鳥ネットの補修を行う等、141 農場すべてにおいて適切な管理がなされました。また、管内の 41 農場においても同様でした。

また、県内の愛玩鶏飼養者 920 戸に対して飼養管理の一斉自主点検を平成 21 年 11 月 24 ～ 30 日に実施依頼をし、管理の徹底を行いました。

県内の養鶏場及び愛玩鶏飼育のみなさん、今後とも適切な管理の継続をお願いします。

注*：飼養衛生管理基準 10 項目

- ① 定期的な畜舎内外の清掃・消毒を実施し、家畜・作業衣等を清潔に保つこと。
- ② 畜舎に出入時に手指・作業衣・作業靴等を消毒すること。
- ③ 飼料・飲用水に家畜・ねずみ・野鳥等の糞等が混入しないようにすること。
- ④ 他の農場から導入時には、健康確認までの間、隔離飼育すること。
- ⑤ 自農場管理者以外の農場内立入禁止と出入り車両の消毒を励行すること。
- ⑥ 畜舎の破損箇所速やかな修理と、窓等の開口部の衛生害虫（ねずみ、野鳥、はえ等）対策にネット等による侵入防止と駆除に心がけること。
- ⑦ 家畜の移動時には伝染病伝搬防止のため、当該家畜の健康状態を確認すること。
- ⑧ 家畜の健康管理と異常時の早期発見に努め、獣医師の診療を受けること。
- ⑨ 適切な飼養密度で飼育すること。
- ⑩ 農場長や従業員が家畜伝染病の発生予防に関する知識を習得すること。

◎「畜産安心ブランド生産農場」にクリーンミルク 6 戸、クリーンビーフ 3 戸、クリーンポーク 1 戸、クリーンチキン 1 戸が新規に認定、更新は 8 戸すべて再認定。認定は今年（平成 22 年 10 月まで）のみとなりました。

平成 21 年度畜産安心ブランド生産農場認定委員会（認定委員 13 名）が平成 21 年 12 月 22 日新潟市で開催され、新潟県内の新規申請のクリーンミルク 11 戸（当所管内 6 戸）、クリーンビーフ 17 戸（3 戸）、クリーンポーク 4 戸（1 戸）、クリーンチキン 1 戸（1 戸）、計 33 戸（11 戸）が新規に認定されました。また、更新 60 戸もすべて認定され、全県で 226 戸（当所 52 戸）の認定となりました。

なお、この事業の認定・再認定は来年度（平成 22 年度）で最終となります。是非とも今年挑戦してください。



【新しい制度による認定事業の推移】

年 度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23 ～
新潟県事業	畜産安心ブランド事業			選んで安心「にいがた畜産」拡大事業			
畜産協会事業	畜産安心ブランド生産農場認定事業						
認定・再認定の例と期間	認 定	認 定		再認定	再認定		最終認定

認定は 3 年間のみ 認定取消農場再認定

◎【管内の家畜伝染病発生状況（平成21年 1～12月）】アカバネ病の発生

平成21年1月から12月までの管内の家畜伝染病及び伝染性疾患の発生状況は下表に示すとおり、法定伝染病の発生はありませんでしたが、届出伝染病として、牛白血病(成牛型)が3頭に、牛異常産を起こす、アカバネ病が1頭(感染は管外の預託牧場で)に、豚ではと畜場で発見される豚丹毒及び豚赤痢の発生が認められ、発生農場に発生防止対策を指導しました。鶏ではロイコチトゾーン病の発生がありました。

また、伝染性疾患として、乳用牛に下痢を主徴とする牛コロナウイルス病が1例に、豚では豚サーコウイルス関連疾病及びその混合感染の増加傾向が認められました。鶏では鶏大腸菌症、鶏パストツレラ症の散発が認められました。

表 家畜伝染病及び伝染性疾患の発生状況

区分	畜種	病名	発生戸数	発生頭数	区分	畜種	病名	発生戸数	発生頭数
法定伝染病					その他の伝染性疾患	豚	豚サーコウイルス関連疾病	8	352
届出伝染病	牛	牛白血病(成牛型)	3	3			豚サーコウイルス混合感染	5	306
		アカバネ病	1	1			豚レンサ球菌症	4	7
	豚	豚丹毒	2	30			豚増殖性腸炎	2	60
豚赤痢		2	3	豚大腸菌症			7	85	
その他の伝染性疾患	牛	牛コロナウイルス病	1	10		鶏	豚呼吸器複合感染症	1	50
							鶏	ロイコチトゾーン病	1
				鶏パストツレラ症			1	1500	
				鶏ブドウ球菌症			2	29	

◎おめでとうございます!!!

燕市養豚共進会の最優秀賞に齊藤慶蔵さん、
白根地域養豚共進会の最優秀賞に(有)キープクリーンさん 受賞



第50回燕市養豚共進会
(平成21年11月27日表彰式)
最優秀賞 齊藤慶蔵氏
優秀賞 本多義夫氏
優良賞 沖野博生氏

平成21年度白根地域枝肉共進会
(平成21年12月17日表彰式)
最優秀賞 (有)キープクリーン
優秀賞 上杉隆夫氏、川村照志氏
優良賞 阿部和宏氏、小林正氏

◎「新潟県家畜保健衛生業績発表会」が新潟市(県庁)で開催されます

毎年、家畜保健衛生事業等の改善向上を図ることを目的に新潟県家畜保健衛生所等の事業、調査等における業績について、今年度も県庁で発表会を開催しますので、是非ご参加ください。また、新潟県の発表会で選出された3題も発表する関東甲信越業績発表会(構成:10都県30題発表)が平成22年2月17日(水)津田ホール(東京都渋谷区千駄ヶ谷1-18-24)で開催されますので、併せてご参加ください。

【新潟県家畜保健衛生業績発表会】

と き : 平成22年1月8日(金) 午前10時30分～午後5時まで

と ころ : 新潟県庁西回廊講堂(新潟市中央区新光町4-1)

参加費: 無 料 ※駐車場は県庁外来駐車場(無料)をご利用ください

◎家畜保健衛生所のホームページを充実しました!

新潟県 家畜保健衛生所 クリック → [新潟県:家保のひろば](#)

是非アクセスしてみてください!



◎ 保健4 [ほけん]: 新しい年を迎え、みなさんは決意新たに取り組まれていることと思います。★本「家畜衛生だより」も昭和57年8月に第1号を発行以来、第250号発行の運びとなりました。偏に愛読者の皆さんに感謝申し上げます。その間、大きな家畜衛生の出来事は、幸いにも新潟県での発生はありませんでしたが、平成12年、92年ぶりの「口蹄疫」、平成13年、日本初の「BSE」、平成16年、79年ぶりの「高病原性鳥インフルエンザ」の発生です。口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの感染は拡大することなく清浄化され、世界的にもその対応が評価されました。また、対応の成果として、平成19年に日本での「豚コレラ」清浄国宣言もなされました。★今年も高病原性鳥インフルエンザの季節がやってきました。昨年はH1N1の新型インフルエンザに振り回されましたが、今年も各地域振興局単位での地域初動マニュアルの整備、防疫訓練の実施等、「備えあれば憂いなし」を合い言葉に万全の対策を実施中です。★家畜衛生を通じ生産現場から「食の安全」を届けたいと思っています。今年1年、よろしくお祈りします!(穂)。